立教大学学術推進特別重点資金（立教ＳＦＲ）
大学院学生研究
２０１６年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院　キリスト教学　研究科　キリスト教学　専攻		
研究代表者（2017年3月現在のものを記入）	在籍研究科・専攻・学年	氏　名	
	キリスト教学研究科キリスト教学専攻博士前期課程２年	芳賀　言太郎　印	
指導教員	所属･職名	氏　名	
	文学部キリスト教学科　准教授	阿部　善彦　印	
自然・人文・社会の別	人文	**個人・共同の別**	個人
研究課題	サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路における聖墳墓教会		
研究組織（研究代表者・共同研究者）※2017年3月現在のものを記入	在籍研究科・専攻・学年	氏　名	
	キリスト教学研究科キリスト教学専攻博士前期課程２年	芳賀　言太郎	
研究期間	２０１６　年度		
研究経費（1円単位）	（支出金額）200,000円／（採択金額）200,000円		

研究の概要（200～300字で記入、図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究は、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路において「聖墳墓教会」が存在する意味を考察するとともに、「聖墳墓教会」の建築的特質を明らかにし、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路における「聖墳墓教会」が果たした役割を明らかにすることを目指すものである。

ラテン十字式の平面プランの特殊発展形として、巡礼者に聖遺物を効率よく拝観させることを目的とした「巡礼路様式」の教会群とは極めて対照的に、エルサレムの聖墳墓教会の「復活円堂」（アナスタシス・ロトンダ）を模した集中式平面プランを採用した教会が巡礼路上にあることの意味、そして巡礼者に対して果たした役割について考察を行う。

キーワード（研究内容をよく表しているものを３項目以内で記入。）

〔サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路〕〔教会建築〕〔聖墳墓教会〕

研究成果の概要（図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究は、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路において「聖墳墓教会」が存在する意味を考察するとともに、「聖墳墓教会」の建築的特質を明らかにし、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路における「聖墳墓教会」が果たした役割を明らかにすることを目標にした。

サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路における「集中式教会建築」の一つであるトーレス・デル・リオに存在する「聖墳墓教会」を対象とし、建築学的に分析することを通して、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路に存在する「聖墳墓教会建築」が、オリジナルであるエルサレムの「聖墳墓教会」との関係性を明らかにし、巡礼路において果たした機能とその意味とを検討することを目的としている。

そのため、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路における集中式教会建築の一つとしてトーレス・デル・リオの聖墳墓教会を取り上げ、歴史的な背景や建設の経緯、そして建築的特質の分析を合わせて検討し、考察を進めた。

前提として、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路の成立にかかる経緯を確認し、それが聖人崇拝と聖遺物崇拝という中世のキリスト教会を特徴づけた宗教現象の中で成立したことを確認した。そして同時に、巡礼という宗教現象が複合的なものであり、その宗教性という観点についてだけでも、復活信仰に焦点をおいた古代の巡礼と、聖遺物崇拝に焦点をおいた中世の巡礼といった内実の異なる宗教意識が絡みあった重層的な現象であったことを確認した。そして、それぞれに中身の異なる宗教意識の目に見える表現として、バシリカ式、集中式、ラテン十字式、巡礼路様式といった様々の様式が生み出されてきたことを確認した。その中で、集中式教会建築が、古代ローマの墳墓の建築様式を継承した死と再生を象徴する建築様式としてキリスト教会に受け継がれ、それがさらに復活信仰を象徴するものとして発展を遂げたことを確認した。その上で、トーレス・デル・リオの「聖墳墓教会」が、その名を冠し、それに献げられたエルサレムの「聖墳墓教会」からの影響を「聖墳墓教会」を「写し」た他の教会と比較することによって考察した。そして、エルサレムの聖墳墓教会が、テンプル騎士団を介して、もしくはより広い意味におけるテンプル騎士団の影響を介して、トーレス・デル・リオの「聖墳墓教会」の成立に影響を与えた可能性を示した。

また、巡礼路上の「聖墳墓教会」が巡礼者にとって果たした役割を考察し、「聖墳墓教会」が、古代の巡礼が有していた、中世の聖遺物信仰とは異なる信仰のあり方を中世の巡礼者に示す役割を果たしていたのではないかという位置付けを示そうとした。そして、トーレス・デル・リオの「聖墳墓教会」の建築的な特質について、オリジナルであるエルサレムの「聖墳墓教会」とエルサレムの「聖墳墓教会」を「複製」した他の「聖墳墓教会」の主要な要素を抽出し、比較した。そして、オリジナルであるエルサレムの「聖墳墓教会」を「写す」過程において重要なのは、教会の形態をそのまま「複製する」ことではなく、「8」という数の象徴性や形式を「写す」ことであったとするR. クラウトハイマーの立論を手がかりに、トーレス・デル・リオに「写」された「聖墳墓教会」が、オリジナルであるエルサレムの「聖墳墓教会」を想起させ、エルサレムの「聖墳墓教会」が想起させようとしたキリストの復活と、復活したキリストの墓詣でとしての巡礼を想起させようとしたのではないかとの推定を得た。

また、実体変化説を背景としたキリストの十字架上の犠牲の再現としてのミサの舞台として整えられたラテン十字式平面プランとは異なる「集中式平面プラン」を持つトーレス・デル・リオの「聖墳墓教会」が、当時、ミサ以外の儀式を行う空間としての機能を有していた可能性、より具体的には巡礼者の守護者として自らを任じたテンプル騎士団の叙任の祭儀を行なわれた可能性を示唆するとともに、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路上に存在する「聖墳墓教会」として、巡礼者にとっては灯火台としての機能を有していた可能性もあわせて示した。

トーレス・デル・リオの「聖墳墓教会」は、その名前が示す通り、サンティアゴ・デコンポステーラの巡礼路上に存在するエルサレムの「聖墳墓教会」の「写し」として、特別な機能と意味を持った教会であったものと思われる。

研究成果の概要　つづき

※この（様式２）に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（Ａ４縦型横書き１枚・自由様式）を添付すること。

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

④ 立教大学キリスト教学研究科修士論文